

「みちのく津軽ジャーニーラン」2度目の参加。「来年こそは完走を！」

No.207 長島 晃

昨年は200キロ部門を楽しませいただきましたが、今年は50キロ延び、おまけに竜飛岬まで走っていけるうれしさに勢いがつきます。

スタートは7月15日（土）夜8時、弘前城追手門。250キロ部門の参加選手は148名。天候は曇り。少し風があり、昼間の猛烈な暑さが夜になり落ち着いてきた。絶好のナイトラン。全員初の250キロコース。スタートしてお城を抜け、弘前市内を南に下って13キロで1周し追手門に戻り、そこから市内を離れ24キロ地点の岩木山神社までの道のりを快調に走る。

ここでひと息いれる。声を掛けてくれた人がいた。199番の菅原秀雄さん。アテネのスパルタスロンで一緒した。8年も前のことでも覚えていてくれてうれしかった。当時のトレーニング内容の話をさせてもらった。そんな思いを残しつつ、暗い夜道をまっしぐら黙々と前に進む。

海の駅「わんど」16日4時13分着。意味が分からん「わんど」って何！

東の空が明るくなり始める。小雨が降ってくる。去年はスタートからの雨で結果、金木町の太宰治斜陽館でタイムアウトだった。

「わんど」からの雨は降り続き、お昼過ぎまでの8時間は猛烈な雨となる。道路は「川の道」状態で、青森に来て「川の道」ってうれしいね。足裏のふやけと肉刺が心配だ。

「十三湖・中の島ポケットパーク」の橋を雨風に打たれながら渡り、100キロのCP着（11時50分）。制限時間まで40分余すところである。カレーライスをいただき引き続き津軽半島を北上、雨は小降りとなり風が体に心地よく、癒される。

左手に日本海を見ながら昨年お世話になった「鯨御殿」を思いだす。大変、いや本当にお世話になりました。その4キロ先を大きく右折して小泊津軽の像「太宰治・記念館」に14時15分に到着して館内見学。

これから先は初コース竜飛岬に向かう。途中、七つ滝を過ぎると猿軍団が待ち構えていてにらみを利かせている。なるべく目を合わせず、ゆっくり進む。「バナナなんか持っていないよ」と心に念じて猿に告げ、そそくさと去る。

竜飛岬は登りが手強い。かなりきつい。先に行けども奥が深く三重四重と岩島が連なっているように見える。やっと頂上らしきところまできたが、そこからくだりになり、岬はどこかと気になるが竜飛岬はもっと先の降り切ったところらしい。地図上では北海道新幹線・青函トンネル入口の真上を走りながら岬の灯台まで走り着く。北海道が見える。さして感動はない、まだまだ先が長い。

竜飛地区コミュニティセンター着19時41分着。センターで少し横になり、足を壁に上げて下半身によんだ血液を体内に巡らせる。目をつむり、静かに気に戻してゆく。しかし、そこにヤブ蚊の大群が汗塩だらけの足に群がり寝ていられない。そそくさとセンターを出て、トボトボ走り歩き始めるが相当眠い。かなり迷走しながら「今別ふれあい文庫」にたどり着く。タイムアウトぎりぎりセーフの23時21分着（9分前）。今日までの力を使いきる。

ここから次の「大平ポケットパーク」まで17.6キロ。制限時間まで4時間ある。気が緩んだ途端2日目の睡魔が襲ってきた。睡ランでふっと気がついて眼を開けるのだが真っ暗。意

識して大きく見開いても、なぜか虹色パラソルを開いたままの色模様しか見えない。外灯も信号機も雨も霧も見えない。傘もさしていないのに目の前は虹色のパラソル模様。意識を取り戻してまた歩き始めるが、この虹色パラソル現象は何度となく続く。おまけに上り坂の小国峠越えだ。眠りながら足を進めると国道のセンターラインに歩み寄って対向車にぶつかることになるので側溝脇を歩いていたら、バランスを崩して溝に尻から落ちはまり込んで動けなくなった。起き上がろうとするが運悪くそこはバラ科の植物群の中でトゲトゲが手に刺さり痛くて力が出ない。もがけばもがくほど尻がはまったままだ。落ち着け長島晃。呼吸を整えろ、考えろ、感じろ、平常心、丹田に気を、声を出せとあらゆる試みを繰り返し何とか自力で側溝から脱出。

目が覚めた気がした。気を取り直し「ポケットパーク」を目指し、小国峠を疾走する。県道 12 号線 T 字路手前で力尽きてバス停らしき雨風がしのげるハウスで横になり仮眠をとるが、こんな夜中におせっかいな人がいるものだ。「大丈夫ですか」と男の人（40 歳位）が携帯電話を耳に当て誰かと通信しながら私に気を遣ってくれる。後でわかるのだから警察に連絡していたようだ。主催者に迷惑がかからぬように丁寧に説明して引き取ってもらう。そして気を取り直して走り始めて 15 分、パトカーが私の後ろからついてきて職務質問となる。「パトカーに乗ってください、通報がありましたのでお聞きしたいことがあります」。「嫌です」。車に乗ったら失格になります。すでにタイムアウトの時間（17 日 3 時 30 分）を過ぎていたが、パトカーには乗らなかった。ポケットパークまでパトカー先導で走る。あずま屋で休んでいた何人かのタイムアウトのためにリタイヤしたランナーに訳を話し、おまわりさんからの質問への返答をお願いして、タイムアウトではあるが行けるところまで走り始める。

170 キロ地点で私の正式なこのレースは終わった。その後、多くの人に助けられ五所川原市、黒石市など飛び飛びに進み、総距離 220 キロを走って夕方 17 時、ゴールの弘前さくら野百貨店にたどり着く。今年も完走はできなかったが、とても楽しかった。また来よう。また来年もチャレンジしよう。そんな気持ちで晴れやかな心になった。

西の空には画面いっぱい積雲が広がっていた。白鳥型のそれは弘前の山々のうえにかろやかに浮かび、静かに今日の終わりを告げてくれていた。素晴らしい光景だった。

(2017 年 7 月 31 日、自宅にて)